

ふしみサラダボール子育て情報

「笑顔と自己肯定感」

令和4年10月5日号

板橋富士見幼稚園



幸せは家族の中で生まれる

家族は、子どもにとって幸せの巣です。

幼児期は、家庭という小さな環境の中で、大人に見守られながら日々幸せを感じ、安心して遊びを楽しみ続けています。したいこと、してほしいことなどの気持ちを、だんだんと指さしから言葉で表すことができるようになってきます。

きっと、生活がお子様中心になっている事と思います。どのご家庭も、この幸せがずっと続くことを願っているのではないのでしょうか。子どもが笑う、喜ぶ、はしゃぐ、ねだる、すねる…そんなすべてが幸せ感です。是非この幸せ感を味わってお子様と一緒に過ごされてください。幼児の自己肯定感は、こうして育つものです。

今はデジタル社会です。言葉を発しなくても、情報は手に入ります。自分の思いもネットを通じて伝え合うことができます。しかし、柔軟な思考で人と人とを繋ぐアナログと言われる言葉は、なかなか表現しづらいものです。まだまだ、デジタル社会は発展していきますが、幼児期の自己肯定感は、アナログの言葉で伝え合うことがとても重要です。言葉は感情と一体なものなので、言葉でのやりとりをこれからは特に大切にしてください。

幼稚園で子ども達の言葉を聴いていると、「やって」という言葉一つにも、[やれるけれどやって欲しい] [出来ないからやって欲しい] [先生と一緒にいたいからやって欲しい] と意味は、様々です。子どもの本質を読み解くには、子どもに心に触れてみるのが求められます。その子の思いに触れてあげたとき、その子の心に自己肯定感が培われ、意欲や自信が育っていきます。



ご家庭でも、ぜひ心の意味に触れてあげて欲しいと思います。甘えたいのか、それとも別の理由があるのか、本当の意味が伝わってきます。いつまでも笑顔を絶やさない人との出会いを大切にしたいです。

【写真：今年の運動会のテーマは「海」です。

年少さんはペンギンになりきって楽しく踊っています♪】